21世紀への港
海の未来へ

Chapter Ⅱ

時代の変化に応じて発展してきた小松島港は、
環大阪湾を意識した事業展開を進める一方で、
国際貿易港としてさらに大きく羽ばたこうとしています。

The Komatsushima Harbor facing the Osaka Bay Area is the economic engine of Komatsushima City that drives the local industry. While striving to be eco-friendly as a public open space for residents, its improvement is to be promoted, installing an international multipurpose terminal that is equipped with gantry cranes and other facilities, and enables entries of large container vessels.

四国最大級のコンテナ荷役用ガントリークレーン

小松島港赤石地区大型公共埠頭

小松島港が昭和二十三年に外国貿易の開港場に指定されて以来六十年余。関西国際空港の開港、鳴門・明石海峡大橋の全通、さらには四国縦・横断自動車道の整備により、大阪湾ベイエリアに臨む小松島市にとって、小松島港は産業経済発展の中核であり、現在、小松島港に入ってくる外国船は年間約三五〇隻。その大半がアジア・アメリカなどから木材や紙の原料となるチップを運んでくる船で、小松島港は日本有数の木材の輸入港であり、徳島県における外貿の拠点となっています。

本港地区においては、「みなとオアシス交流広場」や「しおかぜ公園」など多目的スペースを整備し、港湾を中心とした賑わいの創出や観光の拠点づくりを図っています。また、赤石地区においては、一万トン級岸壁（平成十八年完成）を中心にコンテナ貨物に対応する大型コンテナ船の入港や効率的な荷さばきのためのガントリークレーン等を備えた多目的国際ターミナルの整備を推進し、今後東アジア貿易の玄関口として、市民に愛される港を目指します。